



千葉県高等学校PTA連合会

ちば高P連だより

第92号

〒263-0011 千葉県千葉市稲毛区天台町2-8-5
 県総合スポーツセンター宿泊研修所内
 TEL 043(255)0687 FAX 043(255)0681

URL: <http://www.chikoupren.jp/>
 E-mail: chibakoupren@nifty.com



第60回県高P研究集会報告

県高P連監事 飯塚 亜希子
 (千葉県立市原八幡高等学校保護者会会長)

令和六年十一月十五日(金)ホテルスプリングス幕張スプリングスホールにて、第六十回千葉県高等学校PTA研究集会が開催されました。県内PTA会員が多数参加され、活気のある集会となりました。

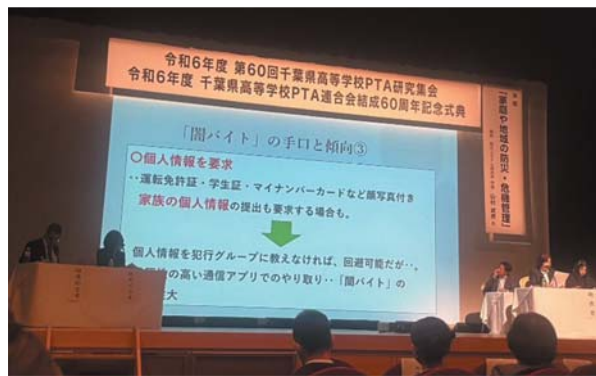


発表校は県立印旛明誠高等学校・県立長狭高等学校・県立市原八幡高等学校・県立国府台高等学校の四校で、各校でのPTA活動内容の発表がありました。どの学校でも会員の減少やPTA役員の成り手不足などに悩みながらも地域と連携を取り魅力ある学校づくりを担うべくそれぞれが工夫して取り組んでいて、今後の参考になる発表ばかりでした。

中でも国府台高校の発表の中に「SNSから我が子の人生を守る」と題して保護者へのアンケートからスマートフォン所有の低年齢化やそれに伴う生活習慣の乱れや我が子の交友関係がわからないなど

の悩みがあり、延いてはSNSトラブルに巻き込まれる危険が増えいじめに発展したり詐欺や事件に巻き込まれる可能性が高くなる事などについての発表があり、会場にいる教職員や保護者の誰しもが頭を悩ませている内容で危険性や注意点を再認識する事ができました。

各校の発表を聞いて、皆が子供たちのために何が出来るのかどうしたらより良い学校生活が送れるのかを考え工夫しながら活動している事が本当に素晴らしい事だと改めて感じた一日になりました。



六十周年記念事業報告

県高P連会長 榎本 茂
 (千葉県立長狭高等学校PTA会長)

令和六年十一月十五日(金)ホテルスプリングス幕張プレミア館スプリングボールにて、第六十回千葉県高等学校PTA研究集会、千葉県高等学校PTA連合会結成六十周年記念式典、結成六十周年記念祝賀会が開催されました。

千葉県議会議員瀧田敏幸様、千葉県教育長教育振興部生涯学習課長村松賢一様をはじめとするご来賓の方々にご臨席を賜り、また県内よりPTA会員も多数参加されました。

六十周年記念事業に参加させていただき、PTAの活動の意義を再確認する貴重な機会となりました。地域の教育と子ども達の成長を支えてきた多くの方々の努力と献身の賜物と言えるでしょう。この記念事業を通じて多くの保護者、役員、学校関係者、千葉県教育委員会、歴代事務局、地域社会の支えとご指導によるものと心より感謝申し上げます。

また、次の世代にバトンをつな





山武地区研究集会について

県高 P 連理事 松島 二郎
(千葉県立大網高等学校 P T A 会長)

令和六年度
山武地区高等
学校 P T A 連
絡協議会総会
並びに研究集
会を令和六年
十一月二十一
日(木)に東
金文化会館を会場に開催いたしま
した。



体験として P T A 各校参加者が左
手で文字を書いたり、お互いに初
めて会った人同士で協力してペン
の上げ下げを行うアイスブレイク
などです。

いずれも、自分の中にある様々
な得意・不得意、さらには、お互
いの「多様性」を理解・尊重し、
お互いが支えあう、共に生きる社
会の重要性について考える貴重な
機会となりました。

講演中は次から次へと少人数で
体験的な課題に取り組み、大変充
実した研修となり講演後には、大
きな拍手が自然と沸き上がる良い
研修となりました。

研究集会では、各学校の P T A
活動報告がありました。
また、研究協議として、植草学
園短期大学 佐藤慎二先生をお招
きして御講演をいただきました。



演題は「ちょっと困った……」
を疑い体験しながら、共に生きる
社会について考えよう！〜ウエル
ビーイングに触れながら〜です。
印象に残っていることは、疑似



市原地区

千葉県立市原八幡高等学校保護者会
生活指導 菊地 ゆき江
委員長



七月十八日と十二
月三日の二度、下校
指導を行いました。

七名と職員二名が参加し学校周辺
の危険箇所の確認を行いました。
八幡高校は自転車通学の生徒が多
い為、少し課題が残るようです。
ただ、自転車の交通ルールについ

て、保護者が正確に把握出来てい
ないのが実態です。学校に任せる
だけでなく、家庭でも子供と一緒
にもう一度確認が必要だと感じま
した。
第二回目は保護者五名と職員二
名で通学路(学校〜八幡宿駅の往
復)の安全点検を行いました。学
校が推奨している通学路(平成通
り)から少し中に入った住宅街は
外灯が少なく、危険があると感じ
ました。不審者情報もあるので、
指定された通学路の使用、ひとり
歩きを回避する事の声掛けの重
要性を実感しました。



着こなしている印象を受けました。
また、生徒が安全な通学を続け
られるよう、様々な視点で学校と
意見交換をさせて頂く事ができま
した。今後も学校、地域と連携し
て、子供達の安全を見守って参り
たいと思います。

松戸地区

千葉県立小金高等学校 P T A
会長 清川 拓 郎



目に付くところです。

今回の指導では、一月十五日の
早朝、P T A 役員四名で北小金
新松戸区間の乗車指導を実施しま

小金高等学校は、
J R 新松戸駅から徒
歩十五分の場所に位
置しています。新松
戸駅は武蔵野線と常
磐線が交差する駅
で、多数の乗客が乗
り換えるため大変混
雑しています。また
駅前には酒類を提供
する飲食店が多数あ
り、夜は酔客も多く

見つかりませんでした。生徒さ
んを温かく見守ってくださる地域
の皆様へ感謝し、生徒さんが安心
して通学できる状況づくりに、今
後も協力していきたいと思ひます。



した。混雑する車内でも、生徒の
皆さんはスマホを見たり、読書を
したりしてマナーよく過ごしてい
ました。
そのあと、新松戸駅前の登校
の様子を観察しました。混雑した
駅前で心配された歩きスマホや道
を広がって歩くなどの行為もなく、
皆さん大人に混じって足早に学校
に向かって歩いて行かれました。
今回は朝の指導ということでし
たが、夜になると街の感じが変わ
るため、部活動などで帰りが遅く
なる生徒さんには注意してほしい
と思ひました。
今回の指導では大きな問題点は

高文連
紹介

思いを紡ぐ

千葉県立八千代高等学校鼓組 山倉 朱音

千葉県立八千代高等学校和太鼓芸能集団鼓組は県内の公立高校では唯一の和太鼓の演奏を行う部活動です。普段の学校では太鼓ではなくタイヤを使って練習を行い、ホールを借りての練習で実物を使い講師の先生からご指導をいただいています。地域のイベントでの演奏依頼を受けることも多く、練習の成果を知る貴重な場になっています。今年度はオリンピックの柔道で金メダルの角田選手のパブリックビューイングや、地元の花火大会など、多岐にわたるイベントでの演奏を通じて、地域の皆様とかけがえのない時間を過ごすことができました。

八月の全国高等学校総合文化祭では優秀賞をいただき、東京の新国立劇場で演奏するという貴重な機会を得ることができました。この大会に向けて、最初はなかなか演奏が仕上がらず、焦りや不安を感じていました。しかし、講師の先生と一緒に、自分たちらしい演奏とは何なのか、一、二年生で挑むこの大会で、他校の三年生より勝る



ものは何かを探しながら練習する中で、徐々に一体感が生まれてきました。私達がたどり着いたのは、「楽しさ」と「笑顔」でした。技術は伴わなくても、ただひたすらに演奏を楽しむことを目標とし、合言葉「考えるな、笑（勝）者であれ」に決めました。毎日一緒に練習してきた仲間の笑顔や舞台からの景色は一生忘れることができない思い出です。また全員で一つの音楽を作り上げるということ、部員だけでなく自分と向き合うこと、そして何より太鼓が好きだという気持ちの大切さに気付くことができました。

私達二年生は六月の引退公演の「鼓組夜祭」に向けた練習を始めています。お世話になった数えきれないほど多くの方々、お客様、仲間との絆、それぞれを紡ぐことのできる舞台を目指しています。

今を
輝く

高校生の声

高文連
紹介

全力で楽しむ！

千葉県立東金高等学校新体操部 磯野 未来

私たち東金高校新体操部は、三年生五名・一年生三名の八人で活動しています。非常に歴史のある部活動で、昭和三十三年ごろに発足したと聞いています。歴代の先輩方も経験されてきた関東大会、全国大会出場、さらにそこでの上位入賞を目指し、練習に励んできた結果、今年の夏、四十八年ぶりにインターハイに出場することができました。

出場が決まったとき、うれしい気持ちの半面、これまで全国大会で上位入賞を果たしていた千葉県の代表として、今まで感じたことのない程のプレッシャーがありました。そのプレッシャーや不安もあり、大会前の練習では思うようにいかないことが多く、失敗も増えてきてしまった時がありました。しかし、そんな時でも、「インターハイ優勝」という目標を常に声に出しながら、あきらめずに全員で協力しながら練習に取り組みました。大会当日は、これまでの全国大会とは異なった会場の雰囲気でしたが、それにのまれないよう、



全員で心をつにし、本番では私たちがモットーにしている「全力で楽しむ」ということを大切にして演技しました。結果として私たちができる最高の演技をすることができ、優勝することができたのも嬉しかったです。

私たちがインターハイで優勝できたのは、どんな時でも私たちを一番に考えてくださった家族、毎日熱心にご指導してくださった先生方、そして、共に練習してきた仲間がいたおかげです。これからも感謝の気持ちを忘れずに、目標に向かって諦めずに努力し続けていきたいと思っています。



後援事業報告①

第18回 高校生理科研究発表会

ポスト・コロナ型
ハイブリッド方式で実施
千葉大学高大連携支援室
特任教授 秋本 行治

千葉大学主催「第十八回高校生理科研究発表会」が九月二十八日（土）、文部科学省・千葉県及び千葉市教育委員会をはじめ、千葉県高等学校PTA連合会、千葉県高等学校校長協会、千葉県高等学校教育研究会理科部会等多くの団体の共催・後援・協賛を得て開催されました。

今年度は昨年度と同様の、対面によるポスターセッション形式に加え、オンラインシステム上にポスターを掲示し、事前に審査委員から指導助言を受けることができ、ポスト・コロナ型ハイブリッド方式で実施しました。物理や化学、生物、地学、数学・情報などの八分野で研究発表を募集したところ、前回（第十七回）の申込数を大幅に超え、コロナ禍前に匹敵する、全国の六十四校から三八四件の応募がありました。発表会当日に参加した



高校生は七五九名であり、その他に審査委員、高校教員、大学教員、後援・協賛団体の見学者等を含め、参加者は合計一七〇〇名に迫る、大規模な発表会となりました。会場では、各参加者が活発に質疑応答を交わし、すべての研究発表に対し、科学研究や教育の第一線で活躍する審査委員の先生方から、直接口頭により、研究の良い点や改善点等のコメントがありました。また、当日は千葉大学横手学長が研究発表を見学し、発表中には熱心に質問を行い、高校生に励ましの言葉が贈られました。

発表会終了後には審査委員全員による審査を経て「最優秀賞」、「千葉大学長賞」等の特別賞など、六十五件の優秀な研究発表に対して賞が贈られました。

千葉県高等学校PTA連合会から、英語による最も優れた発表に贈られる「会長賞」を、生物分野「アスパルテムの発癌性について」を発表した渋谷教育学園渋谷高等学校の佐藤美樹さんに贈呈しました。

今後ともご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

後援事業報告②

第28回 英語・日本語弁論大会

令和七年一月二十九日に千葉大学にて、国際教育研究部会主催の第二十八回日本語・英語弁論大会を開催いたしました。昨年度の大会に続き、今年度も英語弁論、日本語弁論、留学生・外国人生徒による日本語弁論の三部門に加え、プレゼンテーション部門を加えた四部門で実施いたしました。昨年度よりも参加数が増え、県内十三校より四十七名の参加がありました。とりわけ、プレゼンテーション部門においては、昨年度より六組多い九組の参加がありました。各部門の入賞者は、以下の通りです。

第一部門 英語による弁論

- 一位 鄭 甲祥（敬愛学園高校）
Through My Experience in Japan
二位 カタル・メナ（翔凜高校）
Firsthand connections
三位 清水 彩花（修学舎高校）
Maximizing Happiness by International Understanding



- 第二部門 留学生による弁論
一位 曾靖楠ソフィア（県立幕張総合高校）
We Are The World
二位 孫 カイチ（翔凜高校）
身近な国際交流
三位 王 シエイ（翔凜高校）
偏見をなくそう
- 第三部門 日本語による弁論
一位 緒形 優（敬愛学園高校）
軽視された道徳
二位 興野 美伶（市立松戸高校）
共通の水資源
三位 北山 愛紗（市立松戸高校）
小さな一歩が大きな一歩へ
- 第四部門 プレゼンテーション発表
一位 佐久間 心遥（麗澤高校）
「教育改善海外ボランティア」
二位 丁 アモウ・山中 里来（翔凜高校）
「協調できる世界づくり」
三位 須長恵光理（県立山崎高校）
「正しい心と正しい情報」
- このうち、日本語発表部門に出場した幕張総合高校の寺内くんが、八月に行われた第六十一回全国国際教育研究大会宮城大会において、見事全体の第一位に相当する「文部科学大臣賞」を受賞いたしました。これにより、留学生による日本語発表部門においては、千葉県選出生徒が七大会連続の全国大会出場となりました。
- 今後とも、弁論大会参加生徒への応援をよろしくお願い致します。

なお、第一～三部門の入賞者のうち、資格を満たす者は関東甲信越静地区弁論大会へ千葉県代表として出場いたします。第四（プレゼンテーション）部門については、入賞グループ（個人）を次年度開催の第六十二回全国国際教育研究大会栃木大会における「高校生国際理解・国際協力に関する研究発表会」部門に、千葉県代表者として推薦いたします。

また、昨年度の弁論大会を勝ち抜いた五名の、関東甲信越静地区大会での成績についても、ご報告いたします。

ねえ知ってる？ うちのPTA

千葉県立市川南高等学校 PTA 会長 中原 いずみ

PTA活動継続のための ICT導入について

きっかけはコロナによる三年のブランクを経て活動を再開し、研修委員会の引継ぎを行った時です。文化祭の出店では、何をいつまでに準備すればいいのか、手順書というものはなく、過去の企画書（紙）と長年PTAに携わってきた先生に話を聞き取るだけしか情報がなく、予算化もされていませんでした。この内容を次世代の担当に引継ぎするには、かなりの負担がかかる、それだけでなく役員をやったが人はいない、役員としての期間は短いかもしれないが、誰かが必ずやらなくてはならない、そんな状況を少しでも改

善できないかとの考えに至りICTツールの導入を提案しました。

現状ではグループLINEのノート機能を使って報告書を作成したり、会議への参加出欠確認をしたりしていますが、報告書の書き方も人それぞれで、検索できる仕様にはなっていない。そこでまずは、書類の電子化・共有化ができるツールを調べました。PCがあれば解決とも考えましたが、PCを苦手としている人は多く、①スマホだけで完結できる、②資料は入力フォームに従えば誰でも同じ形のものを作成できる、この二点に絞って情報収集を行いました。

今回導入を検討しているツールはPTAなどの任意団体向けにシステムを提供しており、PCなどの操作を苦手としている方でも扱いやすいものとなっています。また、LINEのようなコミュニケーションツールも備えており、全体共有、委員会ごと、先生方との共有など部屋を分けてコミュニケーションをとることができるよう、必要な情報が必要な人とダイレクトにやりとりすることができます。今はこのツールのトラアル期間を使い、必要なアプリ（入力フォーマット）の作成と、使用感を試しているところです。最終的にはPTA総会の承認を得て、正式に導入となりますが、このシステム自体を継続運用していくための管理者の育成にも力を注いでいきたいと思います。

クラウドシステム活用のステップ



ファイルの管理(保管・検索機能)

Kintoneに保存しておきたい資料を誰でも登録できるので、カテゴリごとに検索したり、資料名で検索することができます。



コミュニケーション機能

LINEグループと同じようなツールで「スペース」機能を使えば、チームのメンバーと、やりとりができます。また、スレッドで議題を分けることができるので、コミュニケーションがスムーズになります。



日米の高校生の異文化交流と相互理解をテーマに「AIG 高校生外交官渡米プログラム」として、毎年夏休みの期間中の約3週間、日本の高校生を高校生外交官として米国に派遣しています。

AIG
AIG 損保

千葉支店
〒261-7120
千葉市美浜区中瀬2-6-1
WBG マリブイースト20階
<https://www.aig.co.jp/sonpo>



県連プランにご参加ください。
詳細につきましては、後日ご案内いたしますのでご覧ください。
皆様のご参加をお待ちしております。

第74回全国高等学校PTA連合会大会三重大会

去る、令和六年度十一月一日(金)にホテルポープラザちばにて式典が行われました。日頃のPTA活動の功績が顕著であり、永年にわたり、PTA役員として精励し、PTA活動に尽力された方に贈られる大変栄誉ある賞です。



令和六年度 千葉県教育功労者表彰受賞
武藤弘晃 元県連会長



まず我々は、いすみで様々な食材を作っている生産者の方の声を聞くことから始めました。トマト農家やチーズ工房、漁協の方など多くの方と触れ合う中で、生産者ならではの課題を抱えていることを知りました。そこ

五十個限定で販売したのですが、お店は大盛況で、タコ唐サンドは四十分で完売してしまいました。今回集まったアンケート結果を踏まえて、次回の販売に生かしていきたいと考えています。我々はこれからも活動を継続し、いすみ市の課題解決、そしてこれからのますますの発展に少しでも貢献できるよう取り組んでいきます。

また改善点等を挙げてもらいましたが、いすみ市の良さを今まで以上に多くのの人にアピールすることが必要ではないかということを感じました。ちょうどこのタイミングで、いすみのハッピーサンドイッチ作りを始めようとしていた地元の方と知り合い、その方と協力して、高校生のアイデアを生かしたサンドイッチ作りがスタートしました。



このサンドイッチを港の朝市に出店している地元の方に製造依頼し、販売することができました。その際、お店の装飾や販売のお手伝い、購入していただいたお客様へのアンケート調査などを三校の生徒で協力して行いました。



私たちががんばります

いすみのハッピーサンドイッチ

『タコ唐サンド』の取組

千葉県立大原高等学校 二年次生 田中 奏都

私は昨年の五月から、『課題探究型キャリア教育ゼミ』の一員となり、一宮商業高校と大多喜高校の生徒とともに、いすみ市を活性化し、より暮らしやすい街にするための取組を行っています。我々高校生に何ができるか考えるきっかけとして、まず多くの観光客でにぎわう大原漁港での港の朝市にてインタビュー調査を行いました。いすみ市の良いところ、

で、これら生産者が作りたいいすみの特産品を生かしたサンドイッチをまず自分たちで考案することになりました。様々な食材を組合せ、試作を重ねて完成したのが『タコ唐サンド』です。メインの食材であるタコを唐揚げで提供し、地元で採れた野菜に地元で生産しているオリジナルソースで味付けして誕生したのが『タコ唐サンド』です。

小さな掛金、大きな補償

4名以上の団体・グループで
ご加入ください。

スポーツ安全保険®

対象となる事故 団体活動中の事故／往復中の事故

文化活動やボランティア活動等もご加入できます



保険の詳しい内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

スポあんネット

パソコン・スマホで
だれでも、かんたん
便利に使いやすい！



インターネット
で簡単お手続き

公益財団法人スポーツ安全協会